

【表紙】

お父さんの歌時計 全三巻

【表紙 裏】

【1頁】

写(十六ミリ)

お父さんの歌時計

全三巻 四〇二米

台湾総督府

M第八六六号

検閲済

有効期間

自昭和十四年五月一日

至昭和十七年四月三十日

活動写真「フィルム」検閲規則

第十条第二項ニ依リ手数料ヲ免除ス

本「フィルム」ハ手数料ヲ納付スルニ非

サレハ営利 性質ヲ帯フル興行

ニ使用スルコトヲ得ズ

障害ナシ

【2頁】

【3頁】

お父さんの歌時計 全三巻

△梗概▽私立中学の英語の教師だった松井俊作は寄る年波と共に眼を患つて隠退の

止むなきに至つた既に妻を失ひ長女の綾子は事情あつて家出し妹娘の幸子が唯一

の頼りであつた 思□のない彼は記憶残る英文書の中から童話の資料など拾い出して

幸子に筆□させ原稿料に依り一家の生計を立てやうとしたが世□が相手にしてく

れぬ所から幸子が自分の力で此の苦境をきりぬけた話

△字幕 第一巻

1. サクラグラフィ
2. 日活作品 改訂版
3. お父さんの歌時計
4. 原作脚色 鈴木紀子 監督 吉村廉 撮影 永塚一栄 大島彦兵衛
5. 配役 松井俊作 山本礼三郎
綾子 星玲子
幸子 橘公子
6. 出版社「母の友」の応接室にはけうも亦原稿売込の文□□中が大勢詰めかけて居た

【4頁】

7. どこかで見たやうな顔だが自分の原稿を持つてきたのかな？
8. 松井さち子さん！
9. 持込現行は一切お断りして居るのですが池田さんの紹介もありましたので拝見して置きました
10. 遠慮なく申しますと内容が古いんです
11. 童話はやさしい様でも仲々むづかしいものにして
12. 帰つて父にさう申します
13. お父さんがお書きになったのですが
14. 父は眼が見えないものですから父の話すことを私が筆記したんです
15. お気の毒な御事情のやうですがさつきも申したり通り……
16. さち子の父松井俊作は中学校の英語教師をつとめる中に眼を患つて職を退き
苦しい生活の中に――
17. 長女に家出され妻を失ひ今では妹娘のさち子一人を杖とも桂とも頼んで――
さる郊外に植木屋の離れを借りてわびしい暮しをつづけてゐた
18. お帰りなさい 遅いんで心配してましたよ
19. 茂ちやん遊びに出られなくてつまらないわね
20. たゞいま！

【5頁】

21. 路が悪かったらう 御苦労だったね
22. お父さん一人で淋しかったでせう
23. お父さんは歌時計があるから淋しくないさ
24. 退職の時生徒から記念に贈られたオルゴール時計は失明の彼を慰める無二の友であつた
25. 「母の友」□はどうなつた
26. 「来月号に載せるつてとおつしやつてましたわ

27. わしもあの小鳥の童話にはちよつと自信があつたんだよ
 28. 急いでその次をまとめることにしやう
 29. お土産にチョコレートを買つて来ましたわ
 30. 茂ちゃんにも少し分けてお上げよ
 31. Ⅱ幸福はこの親子鳥の上にも永くは続きませんでした その日も山脈の空を渡□
の群が越へて行くのが見えましたⅡ
 32. Ⅱ暖々お母さんの胸毛の中でちつと渡鳥の行方を見守つてゐた姉鳥のリリーが
つぶやきましたⅡ
- あたしもおのお山を越へて行つて見たい あのお山の向ふにはきつと楽しいことがある

【6頁】

33. それからしばらくした或る日 姉鳥のリリーはお母さんにたまつて何処ともなく飛び去つてしまつたのです
34. お母さんは心配のあまりとうく病氣になつてしまいました まだ小さい姉鳥のマリ
Ⅰはその日からお母さんの看護をしたりお家の御用をしたりして
35. お父さんお願いがあるの
36. 何んだか云つてごらん
37. 私も何処かで働きたいんだけど許して下さいさらない：
38. 何を馬鹿なことを！お前まで綾子のやうに家を出たくなつたのか
39. あたしの気持は綾子姉さまとは違うわ
40. では家を出たいなんて何故いふんだ
41. かうして毎日童話を考えて頂してゐると終ひにはお父さんの躰に障りやしないかと思つて
42. 心配してくれるな 体は弱つたがまだ頭は大丈夫だ
43. お父さんは又お前まで綾子の真似がしたくなつたのかと思つてびつくりしたよ
44. お父さんはまだ姉さんのこと怒つていらつしやるの

【7頁】

45. 綾子の話は止めたⅠ筆記を続けてもらほう
46. 母鳥の病気の処までだったね
47. こんなことは馴れてゐますから わたしに気がねは入りませんよ
48. 松井さん随分しばらくね
49. この頃どうしてるの
50. お父さんの御□□いかゞ

- 5 1. これから同窓会のお芝居のお稽古に行くのよ
- 5 2. あなたもいらつしやいよ
- 5 3. お父さんの体がよくないものですから――
- 5 4. どうぞお父さまお大事にく
- 5 5. これがおぢちゃん
- 5 6. これがお姉ちゃん
- 5 7. これが亡くなつたおばちゃん
- 5 8. この大きな姉ちゃんはたアれ
- 5 9. それはよその姉ちゃんだよ

【8頁】

- 6 0. 解つたお嫁に行つたお姉ちゃんだね
- 6 1. あゝ飛行機だ!
- 6 2. □□□三円は高いねせめて二円五十銭にまけなさいよ
- 6 3. そんなこと云はずに負けなさいよ親孝行のお嬢さんがお父さんの為に買ふんだもの
- 6 4. 餌はどんなものをやればいいのだい
- 6 5. 糟餌よりは麻の実の方がいゝんですつて
- 6 6. 本当にいゝものを買つてくれたよ歌時計のほかにお父さんのお友達が又一人で来た
- 6 7. お彼岸のおしるしです おいしくありませんが――
- 6 8. よいお彼岸日和らしいなわし達もお母さんのお詣りに出かけやうか
- 6 9. 第一巻 終

第二巻

1. 第二巻

2. 九十七・九十八・九十九 百!
3. 今日は千歩までゝお母さんのお墓へ行けますわ

【9頁】

4. どうかしましたのお父さん
5. すこし疲れてきたよ
6. □苦しいんじゃない
7. 墓参の途中で□病してから俊作は急に衰弱して終つた
8. 苦しい生活の中から医薬の代を工面するさち子の苦勞は容易なことではなかつた
9. お帰りなさい お留守中にお手紙がきて居ますよ

10. (姉の手紙)

- お便り拝見お父さんの御病氣ほんとに心配でなりません 貴方になばかり苦勞をか
けてそれを思ふと本当に居たゝまらない氣持です 私も家を出てからはいろく苦勞をしま
した 近くうちに必ず帰つて今迄の我儘を御詫びしお父さんの御看護をいたします
- 1 1. 姉よりの便りはさち子の心を久し振りに明るくし又―
 - 1 2. 幸ふにも父の容体は幾分よくなつて来た
 - 1 3. まだ熱があるかい
 - 1 4. いゝえもう大丈夫よ
 - 1 5. 明日あたり起きてみやうか

【10頁】

- 1 6. お天氣さへよければ起きられますわ
- 1 7. 丈夫になつたらみんなにほめられるやうな童話をきつとかいて見せる
- 1 8. 「母の友」がもう出る時分だろう
- 1 9. 本屋には未だ出てあませんわ
- 2 0. お茶もらつて来たよ
- 2 1. けふはお便りのごほうびが何んにもないのよ
- 2 2. お氣の毒ですが私共の方では一切持込原稿は受付けないことになつて居□□□
- 2 3. 今日は大層取混んで居りますからお断り致します
- 2 4. 花□□かれる世宵をよそにさち子の心は遊ぶ秋のやうに淋しかった
- 2 5. 離れの先制の工合はどうなんだい
- 2 6. お医者さんには何とかの注射をしろつていふんだつて
- 2 7. ぢやそれをやればいゝぢやないか
- 2 8. それがね
- 2 9. なんとか都合がつかないのか
- 3 0. だつてお嬢さんの着物はもう一枚もないんだよ

【11頁】

- 3 1. うちだつて今の処どうにもお助けのしやうもなしさ
- 3 2. お父さん僕のお金取つちやいやだよ
- 3 3. お父ちゃんにちつとの間貸してくれいゝまだく
- 3 4. お母さんまたお願いします
- 3 5. さち子かい
- 3 6. 「母の友」はどうだつた 原稿料を貰つたかい
- 3 7. いたゞして来てよ
- 3 8. 雑誌も出たらう見せて御覽

- 3 9. 帰ってくる足音に元気がなかったのでお父さんは駄目だったのか心配したよ
- 4 0. どの辺だらう
- 4 1. こゝよ
- 4 2. さし絵はどんなのが書いてある
- 4 3. イギリスの田舎のとつても綺麗な風景よ
- 4 4. ひとつつ読んで見てくれないか 今日には子供の気持になって□そみやう

【12頁】

- 4 5. どうしたんだ
- 4 6. お前なにかお父さんに秘してゐることがあるんぢやないか
- 4 7. 第二巻 終

第三巻

1. 第三巻
2. 父の原稿からは一文の金も出来ない もうお金にする品物もない――
3. さち子の頼るものは唯自分の力だけであつた
4. 悲しい生活をありの俣につゞる物語は不思議な力が加はるやうに彼女の筆を運んで――
5. 看病の暇をぬすんだ幾月十日かに彼女の処女作「お父さんの歌時計」は出来上つた
6. 内容さへよければどなたがお書きになつてもかまいません
7. 宜敷くお願いいたします
8. 吉川先生の例の原稿が締切の間に合はないのですが
9. あれ程頼んでおいたのに困るな
- 1 0. 早速何とか□□かないと来月号の編輯が――

【13頁】

- 1 1. 間に合せの原稿に何か心当りはないかね
- 1 2. 食堂でよく相談しやう
- 1 3. 私こんなに関心した小説つて始めてよ
- 1 4. どうしてこんなものを□□□に捨てたんでせうね
- 1 5. 昼食も忘れて一心に読みふける少女達の口から漏れる一節一節は――
- 1 6. 図らずもそれに百も入る編輯長の胸を同じ感激で充した
- 1 7. 松井さん速達です
- 1 8. (タイプした手紙)

前略 先日貴□御持参の原稿「お父さんの歌時計」は本誌来月号に掲載□□□
同封の原稿料御受取被下度□ 「母の友」編集部

19. お父さん私の原稿が売れたのよ
20. お父さん御病気だつてすぐ癒つてよ!
21. □不自由なお父さんに心配をかけまいとするやさしい心づかいにお父さんはどう感謝していゝか
22. お父さん許して下さい 今までは沢山嘘をついてゐました
23. お父さんの大事な歌時計も……
24. 心配しなくてもいゝよ お父さんは皆んな知つてゐたんだ

【14頁】

25. もう泣かないでくれ お父さんはこの通り喜んでゐるんだよ
□ お父さんはお薬よりも歌時計が聞きたい
26. さち子さんゐる—
27. お姉ちゃんは僅かお母ちゃんとお使ひに行つたよ
28. おぢちゃんなら寝てゐるよ
29. さち子お前にはほんとに苦勞をかけたね
30. もしもお姉さんが帰つてきたら二人助け合つて仲よく暮すんだよ
31. それからお父さんの事を□したらちつとも怒つてはゐなかつたと云ふんだよ
32. 済みませんお父さん!
33. お父さん! 歌時計を持つてきました!
34. さちちゃん
35. お姉様
36. お父様 お父様
37. 二人の子に抱かれて永き眠りにつく父の夢を護るやうに歌時計はいつもの静かな曲を奏で始めてゐた
38. お父さんの歌時計 終

【データ採録者：高崎祐太郎】【校正：森田健嗣】